

対馬 正（つしま・ただし）

1、プロフィール

詩人。早大在学中に吉江喬松、日夏耿之介の教えをうけて詩作した。日夏門下の雑誌「無軌道」（後に「葡萄」）の同人。また同人誌「葡萄の実」に参加。

<生没>

1908(明治 41)年8月9日 ～ 1981(昭和 56)年3月6日

<代表作>

詩集『轟々と流るるものへ』

著書『百万人の音楽—ジャズ』

<青森との関わり>

南津軽郡富木館村に生まれる。郷土の新聞に詩を発表。津軽、藤崎中学校、深浦小学校などの校歌を作詞。

2、作家解説

県立弘前中学校時代の正 11 年頃、同人雑誌「草笛」（後に「塑人」）を佐々木繁らと出す。昭和元年、早大文科に入学。同年、母方の篠崎家の養子となる。4年に、文学部英文学専攻科に入学。文学部長吉江喬松博士の散文詩論に共鳴。5年に日夏耿之介教授門下の同人雑誌「無軌道」（のちに「葡萄」）の同人となり詩作に没頭。7年に吉江のすすめで準備をはじめた長編処女詩集『轟々と流るるものへ』を梓書房より刊行。題簽と叙・日夏、序文・吉江は二千字にあまる熱烈な期待を寄せている。長詩七編を収めている。この一巻で既成の詩人を 圧倒するような気概を示した。

やがて日本ビクター(株)に入社。以後半世紀会社とともに歩む。

34 年創刊の同人誌「葡萄の実」に参加。詩・随筆・俳句を発表。宗教的心境の澄んだ作品ばかりであった。

また県内の津軽中学校、藤崎中学校、深浦小学校などの校歌を作詞。労働歌「世界をつなげた花の輪に」を作詞。著書に『百万人の音楽—ジャズ』がある。53年、弘前美術作家連盟十周年に記念講演をする。

昭和 56 年3月6日、鎌倉市で逝去。享年 72。

3、資料紹介

○『轟々と流るるものへ』

図書

1932(昭和7)年3月

長編処女詩集である。内容は「轟々と流るるものへ」「新しき祈」(昭和3年)、「北国の歌」(4年)、「黒き鳥の群」(5年)、「超克賦」「大学よ、さらば!」(6年)からなる。この一巻で既成の詩人を圧倒する気概を示した。豪華版。